



平成16年1月号

基本理念 医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、
その時代時代になしうる最良の医療を提供すること。



虎の門病院 本院

「明けましておめでとうございます。」 院長 山口 徹
「エイボン功績賞受賞」 産婦人科非常勤嘱託医 堀口 雅子

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。

院長 山口 徹



昨年は、病院を取り巻く医療状況が厳しさを増すなかで、虎の門病院では職員一同の努力により多くの成果が得られました。皆様のご支援に感謝いたします。

患者さんに分かりやすい情報開示の態勢を作ること、病診連携の輪を広げることを目指して活動を進めてまいりました。ホームページを刷新し、診療体制、診療内容が一目で分かるようにしました。セカンドオペニオンの窓口を設置し、カルテ開示にも積極的に対応しています。医学公開講座を毎月第3土曜日に開催し、好評を博しています。病院ロゴマークの決定、病院理念、基本方針の明示など、患者さんに分かりやすく虎の門病院の情報を開示するよう務めています。また、地元の港区医師会の先生方、虎の門病院OBの先生方とのネットワークの構築、これらの先生方が病院施設を利用できる体制の確立、医師会会合への積極的参加など、病診連携の絆も太くすることが出来たと思っています。

本院では二次救急が軌道に乗り、1日30～40例の救急患者を受け入れて、地域の皆様が安心できるような医療環境の充実に寄与しています。外来患者数は薬の長期投与が可能となったことで1日4000名から3400名へ減少しました。また医薬分業を確立するための院外処方への移行も皆

様のご協力で達成でき、外来の混雑も多少緩和されました。一方分院では、昨年完成した新病棟に加えて、40床の回復期リハビリテーション病棟が軌道に乗り、慢性疾患治療センターとしての機能を充実させることが出来ました。

今年は2月に本院、分院とも日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審します。そのために1年間全ての部署で業務内容の見直しを行ってまいりました。初代大槻院長の定めた基本理念、行動指標としての基本方針を院内に浸透する努力に始まり、十分な医療情報を提供し患者さんの権利を尊重する体制、診療の安全性を高めるための努力を系統的、継続的に行う体制など、最大限の努力を行ってきました。まだまだ満足できる段階ではありませんが、この活動を今後も引き続き病院の最重点目標として継続してゆきます。

従来は隔離された喫煙室を設ける分煙により院内禁煙を行ってきましたが、今や院内完全禁煙が当然視されるようになってきました。遅ればせながら虎の門病院も院内完全禁煙とし、喫煙室を廃止することを決断

しました。患者さんのためには禁煙外来を開設し、職員へは禁煙プログラムへの参加を呼びかけ、積極的にこれを支援して職員の喫煙率5%以下を目指しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

病院経営は、本年も1%の診療報酬引き下げが決定しており、厳しい状況にあります。医療改革のかけ声の下、補助金なども削減されます。職員一丸となって院内全ての部署で無駄を排する見直しを行い、外部コンサルタントの導入により問題点の検

しました。昨年1年間の努力で、何とか安定した病院経営が可能となる見通しがたちました。日常業務を改善しつつ、診療レベルの一層の向上を確保し、本院は急性期病院として、分院は主として慢性疾患治療センターとしての役割を担い、健全な病院経営を行ってゆきます。

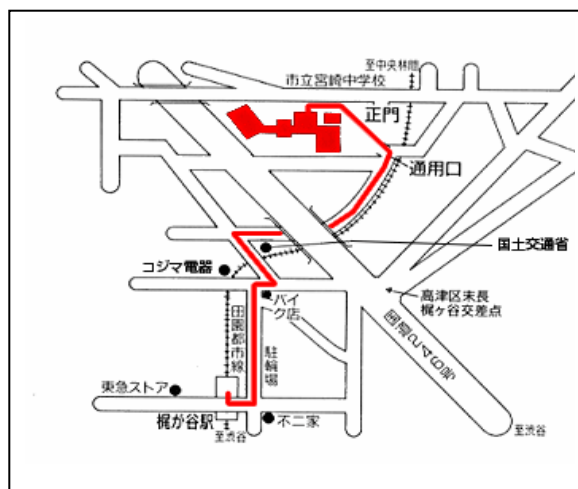
本年も職員一同心を一つにして満足度の高い医療を提供します。皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

病院への交通ご案内図



虎の門病院 本院

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
Tel (03)3588-1111(代)
地下鉄銀座線虎ノ門駅3番出口 徒歩5分



虎の門病院 分院

〒213-8587 川崎市高津区梶ヶ谷1-3-1
TEL (044)877-5111(代)
田園都市線梶ヶ谷駅より徒歩15分
宮崎台駅よりバス5分

エイボン功績賞 受賞

～ 産婦人科 非常勤嘱託医 堀口 雅子先生 ～

化粧品会社エイボンは社会や女性のために有意義な活動をし、功績をあげた女性を称え、1979年以来、表彰をしています。今回、2003年度のエイボン功績賞に堀口雅子先生が選ばれました。医療専門家として女性の視点を生かした執筆、NPO活動を通じて、医療の重要性を提唱したことが受賞理由です。女性が生涯にわたり、心と体の健康を自分で守ることの大切さを啓蒙した事が評価されました。

堀口先生は1970年から定年までの20年、当院において産婦人科医として勤務し、現在は非常勤嘱託医で、他には『性と健康を考える女性専門家の会』会長、日本家族計画協会医学医員、女性成人病クリニック副院長などを務めています。

「私たち女性専門家たちは現状を批判しているだけではいけない。正しい医療の知識を政府にも女性自身にも伝えていこう」と堀口先生を中心に今回の受賞の対象ともなった『性と健康を考える女性専門家の会』が発足しました。全国300人の医師、助産師、教師、ジャーナリストが各地で勉強会、シンポジウムを開き、政府へも提言。そして1999年、日本でついにピル

が経口避妊薬として認可されました。

また、循環器の村崎芙蓉子先生の影響を受け、「更年期の女性ホルモンの減少は生活習慣病の発生その他にも広く影響している」といった性差医療にも着眼し、女性の病気を臓器別ではなく、全人的に診る新しい試みへと導きました。

「医師を育てるのは患者さんです。患者さんが嫌だな、変だな、と思ったことを話してくださるから、私はこのように活動ができるのです」と微笑む堀口先生。今後は女性だけでなく、男女ともに次世代の子供たちにも幸せになる社会、医療の充実を目指しています。

(取材：秘書室 有賀沙織)



診察室にて

< 編集後記 >

新たな年を迎え、今年も職員一同、心機一転、皆様により良い医療をお届けできるよう努力していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

中西成元(医師) 安藤(薬剤部)
田野(放射線部) 北澤・有賀(事務)